



駅ナカフォーラム

人口減少・高齢化が進行する 地域でのコミュニティを考える

3月25日(日)、津軽中里駅内の駅ナカにぎわい空間で「駅ナカフォーラム」が開催されました。フォーラムでは青森大学社会学部の櫛引素夫教授による「人口減少・高齢化が進行する地域でのコミュニティを考える」と題した講演や、櫛引教授と濱館町長の意見交換会が行われました。櫛引教授は「中泊町こそ津軽半島の要。中泊が停滞すれば津軽半島も停滞してしまう。いまべつ駅からのバスや津軽鉄道がなくなってしまう前に考えて実行すればまだ間に合う」と話しました。町長は「津軽鉄道はあと年間4万人、1本あたりにすれば4人増やすことで、路線を維持できる。乗って支えて行きましょう。そしてこの町で農業・漁業でちゃんと食べていけるようになれば、町外から人が入ってくるようになる」と力説しました。

2人の意見交換を聴いた来場者は「昔は津軽鉄道に乗っていたが、今ではあまり乗らなくなってしまった。なくなると寂しいし、友達を誘って乗ってみようかな」と話していました。

